

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 7 月 28 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/28 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	28.5	3.8 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.3 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	36.8	6.95 kPa g	A系： 0.04 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.04 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.3 m ³ /h	34.8	0.23 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.04 Vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/28 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	30.5
2号機	循環冷却システム	運転中	28.2
3号機	循環冷却システム	運転中	27.7
4号機	循環冷却システム	運転中	27.5

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	7/22 9:50 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	6/16 14:42 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (7/28 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中 ^{*1}	運転中 ^{*1}	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

4/28 ~ 4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、凍結管全17本の凍結運転を開始。今後、凍結の壁を造成していく予定であり、凍結状況については、測温管にて確認していく。

7/28 ~ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25 に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28 より氷の本格投入を開始。ドライアイスについては、状況を見極めたうえで投入を判断する予定。

・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

・H26/6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。

・H26/7/25 11:00 頃 サブドレン集水設備設置工事に従事していた協力企業作業員が体調不良を訴えたことから、入退域管理棟救急医療室にて医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると診断。

11:57 救急車を要請。

12:32 救急車にて福島労災病院へ向かった。当該作業員の身体に放射性物質の付着はない。

13:53 福島労災病院に到着。同日、受診した福島労災病院より診断書が発行され「熱中症」と診断された。

・2号機サブドレンにおいて、7/28 に採取した水のセシウム 134 の分析値が 450Bq/L (前回分析値(7/27 採取): 43 Bq/L、過去最高値(H26/3/4 採取): 1,400Bq/L) に上昇。今後、傾向を監視する。なお、その他の分析結果については、前回と比較して大きな変動はない。

・H26/7/28 ~ 8/25 1号機では、現在、原子炉压力容器(RPV)内および原子炉格納容器(PCV)内の不活性化のため窒素封入を行っている。その中で、RPV内への窒素封入は、原子炉压力容器ヘッドスプレイライン(RVHライン)より行っているが、今回、ジェットポンプ計装ラックラインを用いたRPV内への窒素封入試験を行う。試験は、現在窒素封入を行っているRVHラインから、ジェットポンプ計装ラックラインに窒素封入量の乗せ替えを行いプラントへの影響を確認する。

実施予定内容

・STEP1

原子炉压力容器ヘッドスプレイライン窒素封入量 : 30Nm³/h 20Nm³/h

ジェットポンプ計装ラック窒素封入量 : 0Nm³/h 10Nm³/h

・STEP2

原子炉压力容器ヘッドスプレイライン窒素封入量 : 30Nm³/h 11Nm³/h

ジェットポンプ計装ラック窒素封入量 : 0Nm³/h 19Nm³/h

なお、試験終了後は、現在行っている窒素封入状態に戻す。

7/28 11:17 ~ 15:40 1号機におけるジェットポンプ計装ラックラインを用いたRPV内への窒素封入試験を実施。窒素封入量の変更後は、原子炉格納容器HVV温度、原子炉格納容器圧力、原子炉格納容器水素濃度等の監視強化を行っているが、本日の試験においては、プラントパラメータ等の異常は確認されなかった。明日以降も同様の試験を実施し、異常が無い場合には通常監視に移行する。なお、全ての試験が終了したら、別途お知らせする。

【地下水バイパス揚水井の状況】

・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。

・7/25 1 ~ 4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ2の当社および第三者機関による分析結果[採取日7/15]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。

7/26 10:01 海洋への排水を開始。

17:54 排水を終了。排水終了後、漏えい等の異常がないことを確認。なお、排水量は1,963m³。同日、この際の南放水口付近の海水についてサンプリングを実施し、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

< H4エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上